

南の国の「ナデシコ」税理士

成功へのキセキ

第11回 マレーシアとイスラム教と豚肉

マレーシアに行ってきました！

マレーシアのSains Islam Malaysia大学で、日本企業に就職したい学生のための就活セミナーで、パネルディスカッションに参加するためです。

マレーシアは人口約3000万人のうち、過半数の67%をマレー系の人種が占める多民族国家です。そのせいか宗教もイスラム教61%、仏教20%、ヒンドゥー教6.0%、キリスト教9.0%、と多様性に富んでいます。今回、セミナーを行ったSains Islam Malaysia大学は、イスラム系の大学だったため、生徒も先生も全員がモスリム（イスラム教徒）です。イスラム教徒といえば、豚肉を食べない、お酒を飲まない、毎日何回もお祈りをする、断食をする、女性は肌を出してはいけない…など、日本人とは異なる価値観の人たち、別世界に住む異教の人という程度の、申し訳ないほど僅かな知識しかありませんでした。

日本企業が、どの国に進出すべきかを検証するためのフィジビリティ・スタディを行うとき、その国の宗教は、重要な判断材料の一つです。仏教国の国民は、日本人と価値観が似ているので、イスラム教やキリスト教の国より進出しやすいとされているからです。けれど実のところ、ほとんどの日本人が、「なんちゃって仏教徒」。仏教を信仰するというより、映画『千と千尋の神隠し』でも描かれたように、八百万の神様が身近ですよ。山にも川にも草花にも、神様が宿るといって軽いノリの信仰という人がほとんどではないでしょうか。

唯一の神様（仏様）をひたすら信仰するとはどういうことなのか、ましてや宗教が原因で戦争や争いが起きるなんて、私にはとても理解できません。

知人に、キリスト教徒の日本人がいます。仲間内でバス旅行に行ったときのこと。彼女は一人だけ、銀杏の綺麗な神社に足を踏み入れることを拒否したのです。彼女が毎週、教会に通っているのは知っていましたが、普段の会話で宗教の話をするとはなかったもので、ちょっと衝撃的だったのを覚えています。

実際、南の国のヤンゴン事務所働くミャンマー人スタッフも、仏教徒ですが、信仰のレベルは日本人とは、全く違います。事務所には、神棚ならぬ仏様を祀っている仏棚があり、毎朝彼女たちは、そこでお祈りしてから仕事をスタートします。

ブレインング・ルームには、クライアントから預かった書類を保管するキャビネットなども置いてあるのですが、彼女たちは必ず入り口でスリッパを脱いでから部屋に入ります。

私がつい、スリッパを履いたまま入室してしまい、そこにミャンマー人スタッフが裸足で入ってくると、大事にしている彼女たちの仏様を冒瀆してしまったような気分になり、ちょっとバ

ツの悪い思いをするほどです。

こんなことがありました。ある日本人が、まだ観光産業のほとんどない現状をビジネスチャンスととらえ、日本人ビジネスマン向けに、定番土産のお菓子を開発したのです。

パッケージには、ミャンマー最大の観光スポットである「シュエダゴン・パゴダ」の写真を使っています。パゴダとはお寺のことで、仏陀が祀られており、ミャンマーの人々の信仰の中心です。日本人にとっての、伊勢神宮という位置づけでしょうか。

パッケージのイメージは、そうですね、ハワイ定番土産のマカデミアナッツとあったところでしょうか。日本でも、京都土産のパッケージに、清水寺や金閣寺の写真を使ったりしますよね。まさにあんな感じです。

ところがある日、パッケージを見たミャンマー人から、このお菓子を買わないでくれと頼まれたのです。その理由は、シュエダゴン・パゴダの写真。自分たちにとって大切な、大切なお寺の写真を、お菓子「ごとき」のパッケージに使われているのが我慢できない、というのです。

彼女は、ミャンマー語、日本語はもちろん、英語も中国語もネイティブのように話し、海外で働いたこともある才媛です。日本語で普通にコミュニケーションをとっていたので、日本人と同じ感覚で付き合っていた私は、その強い口調にビックリして、とっさに「そうね」と、うなづくことができませんでした。

同じ仏教徒ですら、こんなに価値観が違うのだから、マレーシアでモスリムの人たちにどのように接していいのかと、少々、不安をかかえて大学に到着。

出迎えてくれた教授や事務方の人たちも、全員ヴェールを被って、顔を隠しています。不浄な左手で名刺を渡さないように…など、最初は何となくギクシャク。

でもフォーラムが始まると、そんな心配は全くどこかへ吹き飛ばしてしまいました。参加した300人の学生のうち、3分の2が女性。洋服に合わせて、色とりどりのヴェールを被り、とても華やかです。



色とりどりのヴェールをかぶった学生

世界経済フォーラムから毎年発表されている世界各国の男女格差に関するレポートによると、マレーシアの「男女平等（ジェンダー・ギャップ）指数ランキング」は、142か国中107位と、まだまだです。とはいえ、わが日本も104位ですから、他人様

◆筆者 原 尚美 (はら なおみ) プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練(現:全国公開模試)「財務諸表論」「法人税法」を全国1位の成績で、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性だけのスタッフ30名、一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に「小さな会社のための総務・経理の仕事がわかる本」「小さな起業のファイナンス」(いずれもソーテック社)、『51の質問に答えるだけですぐできる「事業計画書」のつくり方(日本実業出版社)』『トコトわかる株式会社のつくり方(新星出版社)』『世界一ラクにできる確定申告(技術評論社)』『一生食っていくための土業の営業術(中経出版)』など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

のことは笑えませんが(汗)。私が、子育てしながら事務所を切り盛りしている話をすると、あちこちで拍手が起り、女性が働くことの大変さを共有できたような気がしました。

ディスカッションにも意欲的で、日本企業の習慣や考え方、自分のもっているスキルが役に立ちそうか、日本の会社は、就業時間内にお祈りをする時間を認めてくれるのかなど、モスリムならではの質問もあり、時間いっぱいまで盛り上がりました。

ディスカッションのあとも、一緒に写真を撮って、撮って、と次々にスマホで、ハイ・チーズの嵐。ポーズを取る前には日本人が髪のを気にするように、鏡を見て、ヴェールの折り目を直すなど、とても、とてもキュートです。

じつは弊社のヤンゴン事務所にも、モスリムのスタッフが一人います。ミャンマーでは、モスリムは少数派のためか、彼女はヴェールも被らないし、就業時間内にお祈りもしません(心の中でしているのかも)。

そんな彼女が、唯一譲れないものが食事です。モスリムの人には、「ハラール」に処理されたものしか食べません。「ハラール」とは、イスラム法において合法なもの。豚肉そのものを使わないのはもちろんのこと、ポークブイヨンや豚の脂もNG、一度でも豚肉を調理した鍋や包丁、皿やスプーンは洗剤を使ってキレイに洗ったものを使っても、不浄なものともみなされるのだとか。

そのため事務所のスタッフ全員で、食事会をするとなると、ヤンゴンにはなかなか皆で食べられるお店がなく、いつも苦勞しています。

大学でのフォーラムの翌日、「ハラール」についてももっと知るために、クアラルンプールの街にくりだすことにしました。

マレーシアはモスリムが主流なためか、スーパーには、たくさんのハラール認証された食品が並んでいます。

しかも、ノンハラールの食材と、陳列棚が別なのはもちろんのこと、お金を払うレジまで違うという、念の入れようにビックリ！

とはいえハラール認証は、イスラム教徒だけのための食材ではないのだということも知りました。認証を受けるためには、豚肉やお酒などの原材料を使わないだけでなく、工場が清潔である、きちんと掃除が行き届いているなど、厳しい基準をクリアすることが必要なので、モスリムでない人たちも、安心して口にすることができるのだそうです。



キューピーマヨネーズもハラール認証

農耕民族の私たちは、遺伝的に「異なるもの」を受け入れるのが苦手です。皆で同じ時期に田植えをする、田んぼの水を分けあうなど、皆が「同一」であることが、生存のために必要だったからです。

けれどこれからの日本が、日本単独で生きていけないのは、誰もが認める事実だと思います。アジアの中の日本として生きていくなら、仏教やヒンズー教やイスラム教など、異文化を上手に融合させて暮らしているマレーシアに学ぶことはたくさんあります。

単一民族国家の日本との違いをあらためて実感するとともに、これまで遠い存在だったイスラムを身近に感じられた有意義な旅でもありました。

好評発売中

7人家族の主婦で1日3時間しか使えなかった私が知識ゼロから難関資格に合格した方法

原 尚美 著 (中経出版) 1,300円+税

アタマのいい人と勉強のできる人は違います。勉強のできる人は、点をとるコツを知っているだけなのです。どうすれば本番で実力以上の力を発揮して、難関試験に合格するための、超合理的な、大人の勉強法について書いたものです。がんばっているのだけれど、なぜか結果のでない方、勉強したいのに、仕事が忙しくて時間がとれないビジネスパーソン、今よりひとつ上の人生を目指したくて、悩んでいる方、このまま家庭の中だけに埋もれてしまいたくない子育て中のママ、そんな皆さんへの応援の気持ちを含めた一冊です。

7人家族の主婦で1日3時間しか使えなかった私が知識ゼロから難関資格に合格した方法

合格率10%以下の難関資格にストレートで合格した驚異的なメソッド、公開!

資格試験、語学検定、昇進試験……働きながら、こんな試験も必ず受かる!

税理士 原 尚美